兵庫おでかけ情報
青空主義プラス

曼荼羅が伝える世界観

摩耶山天上寺宝物展（神戸）

貴重な密教美術約20点

密教哲学の世界観を表した多彩な曼荼羅を紹介する「摩耶山天上寺宝物展」が、同寺（神戸市灘区摩耶山町2）の書院で開かれている。代表的な「両界曼荼羅」をはじめ、釈迦誕生の場面を生母・摩耶夫人の視点で描く貴重な作まで約20点を展示。諸仏、菩薩が寄り添う姿は、仏教が願う共存、共生を伝えている。

（津谷治英）

同寺は646年の開基。室町期の仏画などを所蔵し、修復を重ねて毎年、一部を紹介してきた。畳間で身近に鑑賞できる。

桃山時代作と伝わる両界曼荼羅（極彩色）は、昨年修復した後、初披露となる。縦234㌢、横143・5㌢の大図。両界は慈悲の思想を表す「胎蔵界」と、智慧を伝える「金剛界」を指す。二幅合わせたものが曼荼羅の基本として知られる。

胎蔵界は中央円の大日如来を4人の如来、4人の菩薩が囲み、その周囲にも多彩な仏、菩薩が座す。金剛界は智慧の象徴である五智如来を強調する。

装飾や表情が異なる数百以上の仏や菩薩が規則正しく配列され、その迫力と精緻さに仏教美術の神髄を感じる。横にはほぼ同じ大きさで、昭和時代に色づけされた両界曼荼羅（江戸期作、版彩色）が飾られ、かつての色合いも想像できる。

山名の由来の摩耶夫人が随所に登場するのも興味深い。「釈迦誕生曼荼羅」は王に嫁いで身ごもり、仏教の祖を生むまでの伝説を一枚で物語り、摩耶夫人を中心に配した貴重な仏画。「釈迦涅槃図」では、天から入滅（死去）するわが子を見守る。根底に母子愛の尊さを感じる。

摩耶夫人像をまつる同寺が、特別に注文した可能性があるという貴重な作品群だ。伊藤浄真副貫主(61)は「ほほえましい母子の姿から、仏教の優しさを感じてもらえる機会になると思う」。

11月9日まで。拝観料500円（抹茶、菓子接待付き）。摩耶ロープウェー「星の駅」から徒歩7分。☎078・861・2684

摩耶夫人を中心に描く「釈迦誕生曼荼羅」

「金剛界」（左）と「胎蔵界」が並ぶ「両界曼荼羅」（版彩色）。奥は桃山時代の作（極彩色）。曼荼羅の迫力が伝わる＝摩耶山天上寺

(C)神戸新聞社 無断転載 複製および頒布は禁止します。